

子どもは未来をつかみたい

2016年度年次報告 2017年度年次計画

(認定) 特定非営利活動法人 **ラオスのこども**



目次

2016年度 第15期 事業報告

この1年.....	p2
ラオスでのプロジェクト	
Ⅰ. 本に出会い、親しむ(読書推進活動).....	p3
Ⅱ. 本をつくる(出版プロジェクト).....	p4
Ⅲ. 集い、表現し、学び合う(子どもセンター).....	p5
日本での活動.....	p6
組織の運営.....	p7
2016年度 第15期 会計報告.....	p8
2017年度 第16期 事業計画・予算.....	p9



学校図書室の地域への展開事業	16ヶ所
学校図書室(HakArn)整備事業	5校
中等学校の図書館整備事業	2校
高校生のための奨学金事業	2都県

「ラオスのこども」とは？

はじめに

1982年、ベトナム戦争後の長引く混乱と停滞の中、東京在住のラオス人と日本の友人とが、「ラオスの子どもたちも日本の子どもたちと同じように絵本を楽しんでほしい」と幼稚園のバザーなどで集めた絵本をラオスに送りました。これが「ラオスのこども」の活動の始まりです。

足どり・活動の柱

本も書店も図書館もほとんどなく、読書をする人も少ないラオスでは、多くの先生にとって、絵本は初めて出会うものです。1990年代に入り、会はラオス語の絵本出版を開始。あわせて、子どもと本とをつなぐ先生のトレーニングなど読書の推進普及に力を注ぎました。また、学校では音楽・図工・体育や部活動が行われていないことから、そうした活動ができる児童館のような「子どもセンター」を各地で開設支援しました。

めざすもの 子どもは未来をつかみたい

「ラオスのこども」の活動の目的は、子どもが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択する権利を全うでき

る社会、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。日本、ラオスをはじめ多様な人々の参加によって、同時代を生きる地球市民としてともに成長していくことをめざします。

これまでの取り組み、成果

当会は読書推進活動の拠点として、学校に焦点をあてています。各校を訪問し、状況に応じた指導を繰り返し丁寧におこなうことで、学校での図書活動が活発化しています。ラオスの小中高校10,547校(小学校8,864校、中学高校1,683校) ラオス教育スポーツ省2015-2016)のうち、今年度末までの累計で、308校で図書室を開設し、2,732校に図書セットを配付し、2,318校にフォローアップをしました。

出版では、紙芝居や海外作品の翻訳、人気作品の再版など、多彩な出版をしました。今年度末までに、ラオス語図書 216種類 893,755冊(図書183/紙芝居17/教科書類6/ニュースレター10)を現地出版しました。

学校外において子ども同士で様々な活動ができる「子どもセンター」は、これまでに、全国14ヶ所の子どもセンターの運営を支援してきました。

この1年

ラオスの状況

ラオス社会は都市部の経済成長は変わらず続いています。出来上がったばかりの高層ビルには近代的なホテルがはいり、そのカフェ、レストランでは以前には想像もつかなかった西欧的なサービスが提供されるようになっています。お金さえあれば、ほとんど不自由がない消費生活を今のヴィエンチャンでは営むことができます。その一方、首都ヴィエンチャンから1時間程度にある中等学校(中学・高校)で、先生にインタビューした際、指導的な立場にある先生でも、学校にある教科書以外、自分では本を一冊も持っていないとのこと。「本を買える場所も近くにはないし、図書館も見ることが無い」という現実があります。経済成長に伴う生活水準の格差は広がる一方です。普通の人々に読書の習慣が根付くまでにはどれほど時間が掛かるのか、まだ想像できません。

国際機関、NGO、政府などによる様々な取り組みの結果、ラオスでは初等教育での就学率など、教育の機会にかかわる改善は進んできました。しかし教育の質にかかわる、例えば政府が学校設置の必須としている図書室設備は、いまだラオス全校の10%程度しか整備されておらず、加えてその利用状況については、十分な把握もされていません。私たちが30年以上にわたり担ってきた、子どもたちが本に親しみ、その世界を広げられるようにと意図する読書推進活動は、未だ重要な役割を持っていると感じます。

ラオス教育データ

小学校の就学率は年々上がってきており、ラオスの教育環境が徐々に改善されていることがうかがえます。一方で、小学校を卒業できない子ども達も少なくありません。県別の違いをみてもわかるように、都市部と地方の差が大きくひらいています。また、中等学校への進学率も上がっていますが、環境が整っていない現状があります。

小学校の純就学率*1の推移(全国平均)

年度	純就学率(%)		
	計	女子	男子
1995-1996		65	72
2000-2001	80		
2005-2006	84		
2010-2011	94.1	93.3	94.9
2015-2016	98.8	98.5	99.0

小学校入学児童が卒業する割合2015-2016

全国平均	77.9%
最低県: サラワン県	56.3%
最高県: ヴィエンチャン都	91.0%

活動の課題、重点的取り組み

今年が初年度となる第7次中期計画に従い、これまでが継続してきた様々な活動の幹となる「読書推進活動」「出版プロジェクト」「子どもセンタープロジェクト」を中心に活動を展開しました。JICAと共同して取り組んできた学校図書室に加え、地域に文庫を設け、村の人々が中心になって支えていく仕組みをつくる学校図書室の地域への展開事業は大詰めを迎えています。その中で、村人が作っている「村教育開発委員会」を、今後の読書推進活動の核にする可能性が見えてきました。当会のスタッフが読書推進事業の担い手ではなく、ラオスの関係者が主役になるようにプロジェクトを作りあげ、継続性と自主性をつくる次の仕組みのイメージが浮かんでいます。

昨年度から運営アドバイザーとともに取り組んでいる「活動の質を上げ、それに相応しい体制を整備する」取り組みは、プロジェクトの再検討、資金調達方法の変更、組織運営方法の改善、東京事務所とラオス事務所間の役割分担の明確化、スタッフの専門度向上のための研修などにより、少しずつ成果が現れています。これまで大切にしてきた「市民性」に加え、専門性を持つNGO組織としての成長をさらに進めるため、不断の改善が今後とも求められます。このような作業の積み重ねの結果、昨年度に引き続き財政状況を少しですが改善できました。私たちの活動に賛同し、多くの皆さまにご協力いただき、支えていただけること、心から感謝しています。

中等学校*2の進学率と純就学率 2015-2016

小学校卒業者の中等学校進学率	90.4%
中等学校前期課程(1-4年)の純就学率	82.2%
中等学校後期課程(5-7年)の純就学率	47.8%
中等学校へ入学した生徒が卒業する割合	61.2%

(出典)教育スポーツ省統計情報センター
(2010年度以降は、Annual School Census)

*1 純就学率: 教育を受けるべき年齢に実際に教育を受けている人の割合

*2 中等学校は7年間あり、日本の中学、高校レベルにあたる

Ⅰ 本に出会い、親しむ（読書推進活動）

ラオスではこれまで、教科書が1人1冊揃わない地域が多く、学校で読み書きを習っても、学校を離れると日常で文字にふれる機会がなく、やがて読み書きができなくなってしまうという状況が続いてきました。また、多民族、多言語社会でありながら、学校の授業は公用語のラオ語のみということが読み書き習得のハードルとなってきました。

当会では、ラオス国立図書館、教育スポーツ省、県・郡教育局と連携し、1992年から約3,000校に図書セットを配付し、303校に図書室を開設し、読書習慣の普及を図っています。

また、子どもと本をつなぐ役割を担うのが先生です。しかし、先生自身が読書経験を持たず本に関心がない、給与が安く農業などの兼業で教育へのモチベーションが高くない、といった例は少なくありません。そのため当会は、先生が本に関心をもてるよう、多方面から改善のためのアプローチをしています。

地域に裾野を広げる学校図書室

地域住民を図書活動の担い手として巻き込み、学校の図書活動の裾野を地域に広げる事業で、ルアンナムター県・ヴィエンチャン県の6郡において16ヶ所を対象に実施しています。

今期は昨年度までに開設した16ヶ所の学校図書室と9ヶ所の地域文庫のフォローアップを実施しました。また、態勢が整った7つの村において、地域文庫を開設し、その結果、対象16地域全てで、地域で図書を利用できる図書室を設置できました。

地域文庫では村人がボランティアとして積極的に関わっています。子どもを連れてボランティアにくるお母さんもいます。地域文庫ができるまで、教科書以外の本を読んだことがなかったという人もいます。お話を読むことは楽しいし、料理の本は生活に役立つと嬉しそうに語ります。近隣の中学生在が図書室運営ボランティアになるなど、地域文庫が村における読書推進の新しい切り口となっています。（学校図書室の地域への展開事業／JICA国際協力機構草の根技術協力事業）



4都県5小中学校に図書室をオープン

空き教室を利用した学校図書室開設を、今期は4都県において、小学校3校と中等学校2校でおこない、同時に教員向けの研修を実施しました。また、過去3年以内に開設した図書室59ヶ所に図書を補充しました。

この事業の成果が広まり、ラオスで活動するNGOや個人から、活動地の学校で図書室を開設して欲しいと

いう依頼が当会へ寄せられるようになっていきます。また、ラオスではまとめて図書を入手できる所がないため、学校用図書セットのアレンジの依頼や、教員の図書室運営研修の要請も少なくありません。



中等学校での図書館建設事業の準備

図書館建設事業の開始準備のため、ヴィエンチャン都2カ所、ヴィエンチャン県5カ所の中等学校において、専門家による建設妥当性の現地調査活動をおこない環境調査の他、学校当局、地域教育局との事前調整をおこないました。

事務所併設子ども図書館の活動状況

事務所併設子ども図書館は月曜から土曜まで開館し、近隣の中学校2校、小学校4校の子ども達を中心に、1日平均34人が来館しました。利用人数は昨年度とほぼ同数ですが、スタッフの地方出張が重なる時期は、時間的な余裕がなく子どもたちの満足度を高めるような企画を作ることができていません。

日本からのボランティア・インターンの活動では、恒例のリコーダー＆ダンス教室を開催し、子どもたちに自己表現の楽しさ、協力してひとつのことをやり遂げる大切さを知ってもらうための活動をおこないました。継続して来ている子ども達は、恒例行事としてプログラムを楽しみにしており、経験者が初めての子に教えてあげる様子も見られました。

また、8月に3週間受け入れたインターン1名が、駐在員の業務をサポートするとともに、スタッフ向けのミニワークショップを実施しました。

II 本をつくる（出版プロジェクト）

ラオスでは、首都でも書店がほとんど見当たらず、本を目にする機会がありません。子どもたちが本に親しむには、ラオス語で書かれたものが不可欠なことから、当会では1990年から絵本を中心にラオスでの出版を手がけてきました。作家がほとんどいない中、日本人、タイ人の専門家による絵本作りセミナーを開いたり、コンクールを通して若手作家を発掘・育成し、これまで216点893,755部の本や紙芝居を出版しています。

近年は消費社会が進み、ファッションや流行情報を発信する雑誌も登場し、出版を取り巻く状況は急速に変化しつつあります。子ども向けの書籍は、援助機関による無償配布が多いこともあり、質の向上が課題です。私たちは「子どもの心に灯をともし」ような、質の高い本作りを目指しています。

多様な図書、1万8千冊を出版

今期は、図書7作品、計18,500部を出版しました。このうち3作品は、新刊作品です。



紙芝居『スックおじさん』（新刊）

作) サミッター ムンアーアサー 絵) サワンサイ スワンペン 1,500部

2014年箕面手づくり紙芝居コンクールで、一般の部特別賞「大阪国際児童文学振興財団賞」を受賞した作品。ラオスらしい果物と動物がでてきて、まとまりのあるストーリーで面白いと好評でした。

《ご支援：学習院女子大学・絵本出版指定募金》



宮沢賢治童話集『風の又三郎 注文の多い料理店 セロ弾きのゴーシュ』（新刊）

宮沢賢治童話集『銀河鉄道の夜 雨ニモマケズ』（新刊） 各3,000部

挿絵) やべみつのり 翻訳) チャンタソン インタヴォン ドゥアンドゥアン プンニャヴォン

宮沢賢治の童話がラオス語で初めて出版されました。独特の表現や世界観を翻訳するのはとても難しく、翻訳経験の長い当会代表のチャンタソンと、ラオスの作家ドゥアンドゥアンさんのコンビが、4年の歳月をかけ完成させました。

《ご支援：大同文化生命国際文化基金》



紙芝居『ふうせんがほしい』（再版）

作) ヤーンナヴッティ チャンタランシー 絵) セーンスリー カッティヤサック 2,000部

1993年にユネスコ・アジア文化センターの支援で出版されたラオス初の紙芝居の改訂版。人気が高く、リクエストが多く寄せられていたため、新たに絵を描きおこしました。

《自己資金》



『なんのどうぶつ？～文字絵本1～』『なんのどうぶつ？～文字絵本2～』（再版）

文) ドアンドゥアン プンニャヴォン 絵) 絵本セミナー参加者7名の合作

アドバイス・デザイン) わかやまけん、やべみつのり、大竹雄介 各3,000部

1997年に出版して以降、再版を重ねる人気作品。シンプルな語彙で動物について詠った詩に、カラフルな切り絵を合わせた作品。ラオス語を楽しく学ぶため絵本です。

《ご支援：冬募金2016》



『詩のリズムで学ぶラオス語』（再版）

作) マハーシラー ヴィラヴォン 3,000部

ラオス語の特徴を生かし、詩のリズムを使ってラオス語を教える本です。昔の小学校1年生用の教科書を復刻したもので、文字ごとに韻をふんだ詩が添えられていることから、ラオス語が学びやすいと評判です。

《支援：冬募金2016》

折り紙ワークショップの実施

ラオスにはない「折り紙」を習いたいという要望に応え、当会が出版した本を使い、昨年度ヴィエンチャンで「折り紙ワークショップ」を実施したところ、たいへん好評だったため、その第2弾をラオス中部のカムワン県タケークで2016年10月におこないました。小学校から34人、幼稚園から6人、計40人の先生を2グループに分け、各3日間の日程で実施しました。折り紙は初めての受講者が多く、最初のうちは、ひとつ折るのにも時間がかかりましたが、子ども達にも教えた

いと皆熱心に取り組み、3日間で40作品を学びました。
ラオスでは、教育内容の改善のために、カリキュラムが改訂されてきていますが、現場の先生は、自らが学んだ経験がない図画工作などを教えねばならず、道具も十分に揃わない中、頭を悩ませているとのこと。よって、実践ですぐに使えるこのワークショップの評判は高く、先生方の積極的な姿勢が目立ち、授業での使い方のアイデアを出す先生もいました。

《ご支援：キャノン株式会社》

III 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

ラオスの学校は、座学による暗記が中心で、音楽、図工、体育はカリキュラムはあっても、十分な指導ができる先生がいない、道具や材料がないなどの理由で、子どもたちの情操面を伸ばしたり、チームでの活動をする機会がないという状況がありました。

そんな中、1994年に、当会などの協力によって音楽、舞踊、図画工作などの表現活動ができるラオス初の子ども施設として、情報文化省による「子ども文化センター」が開設されました。その後、同様の施設が全都県に設置されましたが、近年は、講師の雇用、教材費、行事開催などの資金確保が難しく、魅力的なプログラムが組めず、不活発なセンターも見られるようになってきました。当会においても、資金調達において難しい面がありますが、センターの活動再建のために、サポートをしていくことにしました。

当会スタッフが子どもセンターを訪問し、活動状況や課題の把握に努める計画でしたが、スケジュールを確保出来ず実施できませんでした。

ヴィエンチャン子ども教育開発センターで、運営費をサポートし、運営立て直しのモデルケースとして試行する計画ですが、具体的計画での調整が続いており、支援は次年度に実施することになりました。

ヴィエンチャン子どもセンターでは、日本の大学生による特別講座「リコーダー＆ダンス教室」が毎年継続して実施されています。また、今期は、大学生のツアーによる工作や日本文化を紹介するプログラムも実施され、参加した子ども達からはとても喜ばれています。



日本の大学生が子どもセンターで子ども達と交流

IV もっと学ぶことが出来るように（その他受託事業）

高校生のための奨学金事業

タイのThe Siam Cement Public Co.Ltd.から受託されている事業で、今期で5年目になります。ヴィエンチャン都全域及びカムアン県4郡の高校生（中等学校5年生～7年生）が対象で、経済的に厳しい家庭状況で、学習意欲の高い生徒に、1年間の奨学金を支給するプロジェクトです。

実施にあたっては教育局と協力し、対象地域全校に願書を配布。書類選考の後、審査員が直接学校や家庭を訪問し面接をおこないました。その結果、ヴィエンチャン都150人、カムアン県100名、計250名の奨学生を決定し、1年間の奨学金を提供しました。

受給を受けた生徒達からは、奨学金を得たことにより、「家計を助けるために仕事に行かなければならない日が減り、学校を休まなくてすむようになった」「学用品の購入や補習講座への参加費を捻出できるようになり、安心して学習に集中できるようになった」といった声が寄せられています。

本事業の選考方法は、書類審査と家庭訪問による面接を経て、委員会によって選考されることから、公平であると評価されています。



家庭訪問によるインタビューの様子

その他の受託事業

World Vision Laosからの委託で、学校図書室に設置する図書と図書室運営用の備品セットおよび本棚を35校分準備する事業を受託し、実施しました。

また、文教大学教育研究所からの依頼で、ラオスの小中学校で使用している全ての教科書を入手し送付しました。

例年に引き続き、小田原ユネスコ協会からの依頼により、小田原市内の小学生とラオスの子ども達の絵日記の交換に協力しました。

日本での活動

当会は、日本では東京に事務所を設け、活動を広く知らせ、ご支援、参加の呼びかけなどをおこなっています。また、どなたにも参加いただける、ラオスの文化や食を紹介するイベントや、学校に出向いて国際理解教育の参加型プログラムも実施しています。いずれのイベントもインターンやボランティアの仲間とともに作り上げています。

中学校・高等学校で授業

スタッフや事務局長が学校に出向き、国際理解教育やボランティア体験の授業を実施しています。今期は中学1校、高校1校、大学1校の計3校で、合計約60名を対象に、ラオスの紹介や日本の絵本にラオス語訳を貼る「ラオス語絵本プロジェクト」を実施しました。

その他、大学や企業と、国際理解を深めるイベントを通して、連携を強めました。

参加型プログラム

●ラオス語絵本プロジェクト

ラオスの子ども達に多様な絵本を提供するために、日本語の絵本にラオス語訳を貼り付けてラオスへ送るプロジェクトを実施しています。今期は、プロジェクトへの申し込みが21件、合計534冊(昨年比36%増)をラオスへ送っていただくことができました。

また、担当インターンを配置し、翻訳シートの改訂とデジタル化をすすめることができました。

今期も引き続き、出展したイベントのブースにて、ラオス語絵本づくり体験を積極的におこない、活動への参加を促すはたらきかけをおこないました。

●書き損じハガキの収集

書き損じや使い残しの未使用ハガキを集め、プロジェクト運営資金に活用しています。書き損じハガキ3枚が、ラオスの絵本1冊分に相当します。今期は、プレスリリースなど積極的な広報に取り組んだ結果、ご協力者が増え、1年間で105件、179,958円相当のご寄付をいただきました。

活動ミーティング

会員、ボランティアが集まる活動ミーティングは、スタッフの出張報告や学生ボランティアの活動報告、イベント企画や振り返りなど、計4回開催し、延べ57名が参加しました。

イベント開催

●ラオスの織物展示販売

ラオスの様々な民族の織物、刺繍を使った小物や洋服の展示販売を、各地のギャラリーなどの協力を得て開催しています。今期は、計6回の織物展を主催したり開催協力したりしました。また、引き続き、委託販売も積極的に実施しました。



●ラオスの正月「ピーマイパーティ」

毎年4月に、東京・大田区内の施設で開催しているラオスの正月を祝うイベントは、活動紹介とともに、ラオス料理を味わい、ラオスの文化を体験していただき、好評を得ています。今期は121名が参加しました。

組織の運営

1. 全体運営

■理事会

引き続き理事9名、監事2名により運営が担われ、理事会は4回開催しました。参加はのべ22名で、毎回、財政状況、資金調達、プロジェクト運営についての報告、討議などがおこなわれました。

■総会

9月17日に、活動会員36名(書面表決、委任状を含

む)が参加し、2016年度通常総会を開催しました。第14期事業報告案及び会計報告案が承認され、第15期の事業計画・予算、第7次中期計画が報告されました。

■運営

「読書推進活動」「出版プロジェクト」「子どもセンタープロジェクト」を中心に、これまでの成果を重視した事業運営をおこないました。東京事務所が担う資金調達や広報活動などの事業を明確化するとともに、頻繁にスタッフ

間で状況確認をおこない、管理、モニタリングをおこないました。しかし、計画していた評価結果の文書化までには至りませんでした。ラオス事務所での管理能力を向上させるために、月次報告書の雛形を作成し、基本的な情報共有ができるようにしました。

また、ラオス事務所では、プロジェクト運営実施スケジュールを組むなかで、これまで充分でなかった振り返り、改善のための話し合いなどの時間を確保する組み立てがおこなわれるようになりました。事務所内での目的意識の共有や、改善のための提案などがおこなわれ、進捗管理の改善、活動の質の向上に繋がりました。

各種募金による寄付の呼びかけ方の改善により、寄付金額が増加し、より安定した財務体質への改善が進みました。

期末時の会員数は、活動会員68名、賛助会員130名で、会員の継続率が増加しました。

■資金調達

テーマを明確にした「夏募金」「冬募金」に取り組み、目標額には達しなかったものの、連動したニュースレターの特集記事の掲載などにより、新規の寄付者が増えるなど、資金調達の手法として定着してきました。さらに、クラウドファンディングの取り組みは、新たな支援者と関係を築くことができるとともに、インターンが担当してSNSでの発信を積極的におこない、目標達成の成果に結びつきました。

開始準備をすすめたマンスリーサポーター制度は印刷物でのデザイナーとの調整やクレジットカード会社との交渉などに時間がかかり、開始が計画より大幅に遅れ、年度末での開始となりました。

■広報

ホームページ記事、Facebookの更新など、発信は随時おこなっているものの、ホームページリニューアルの準備が遅れています。活動を定期的に報告する「ラオスのこども通信」は年3回計4500部、年次報告書は1500部を発行しました。

2. 東京事務所

■体制

以下のメンバーにより運営されました。

常勤非専従事務局長 1名

常勤専従スタッフ 2名

3月にスタッフが1名退職し、1名入職するという入れ替わりがありましたが、年間を通じて、常勤専従スタッフ2名、常勤非専従事務局長1名で運営を担当しました。また、今年も会計ボランティアスタッフ2名の継続した協力により、大いに事務局が支えられました。インターンは、昨年度からの継続4名、短期3名の合計7名が、それぞ

れ興味がある分野や強みを活かし、業務を担当しました。継続的なメンバーも多く、総合的に事務局の業務態勢を維持することができました。

3. ラオス事務所

■体制

以下の8名により運営されました。

事務所所長 1名

常勤専従スタッフ 5名

日本人駐在員 1名

アドバイザー 1名

入職してから3年未満の若いスタッフが多いことから、活動理念の共有化のため、会の歴史などを学ぶ機会を設けました。

当会のラオス政府との覚書(MoU)が、2016年11月で終了するため、更新に向けての準備をすすめましたが、ラオス政府のNGOに対する管理ルールの変化などについて状況把握が充分で無かったことから、更新手続きが大幅に遅れてしまいました。カウンターパート側と話し合い、現行MoUを2018年1月まで期間延長するという方向で合意し、延長の手続きを進めました。

■資金調達

人手不足により図書の委託販売先の拡大については取り組むことが出来ませんでした。年間を通じて本の販売冊数は増加しています。

国際協力NGOからの受託事業は大幅に拡大し、図書室の開設だけでなく、図書室用の図書と必要な備品をセットする作業を依頼されることが増えました。

ラオス政府がオーストラリア政府、EUとともに取り組んでいる基礎教育の質改善プロジェクトBEQUAL(Basic Education Quality and Access in Lao PDR)からの要請により、当会の図書6,000冊を有償提供しました。

■ボランティア・インターン・訪問受入

ラオス大学の学生によるボランティアは、定期的ではありませんが継続的に実施されています。日本からのボランティア・インターンは2回、計8名の受入れをおこないました。また、事務所や併設図書館への日本人来訪者の受入も継続しました。



2016年度 第15期 会計報告 (2016年7月1日～2017年6月30日)

活動計算書

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	1,057,000
2.受取寄付金	4,858,016
3.受取助成金等	26,583,302
4.事業収益	10,689,247
5.その他収益	545,846
経常収益計	43,733,411
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	11,591,929
(2)その他経費	22,805,028
事業費計	34,396,957
2.管理費	
(1)人件費	2,132,440
(2)その他経費	4,241,601
管理費計	6,374,041
経常費用計	40,770,998
税引前当期正味財産増減額	2,962,413
法人税等	70,000
当期正味財産増減額	2,892,413
前期繰越正味財産額	6,498,145
次期繰越正味財産額	9,390,558

貸借対照表

科 目	金 額
I 資産の部	
1.流動資産	11,958,326
資産合計	11,958,326
II 負債の部	
1.流動負債	2,567,768
負債合計	2,567,768
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	6,498,145
当期正味財産増減額	2,892,413
正味財産合計	9,390,558
負債及び正味財産合計	11,958,326

経常収益が増加し、昨年に引き続き、正味財産増減額が黒字になりました。運営アドバイザーを迎え、これまで以上に、「募金」に力を入れ、新たな寄付者を拡大するための取り組みをおこなった結果です。資金調達の努力などにより、懸案である財務体質の改善を進めることができました。

ラオス事務所では、読書推進活動での受託事業が増加し、収入が大幅に増加しました。

NPO法人会計基準に沿った会計システムで会計処理をおこなっています。より詳しい資料は、当会ホームページにてご覧いただけます。

事業別損益の状況

科 目	経常収益計	経常費用計
出版事業	2,750,002	2,189,321
図書室地域展開事業	13,650,161	11,011,238
図書館建設事業	480,593	774,126
学校図書室整備事業	5,066,072	5,085,179
子どもセンター事業	105,376	37,115
奨学金事業	8,228,122	7,844,550
特別実施事業	273,692	0
交流事業 *1	1,020,476	432,199
収益事業 *2	9,668,787	7,023,229
事業部門計	41,243,281	34,396,957
東京管理費	1,711,268	4,572,935
ラオス管理費	778,862	1,801,106
管理部門計	2,490,130	6,374,041
合 計	43,733,411	40,770,998

*1 交流事業は、各種イベントの参加費、ラオス語絵本プロジェクト、講師派遣・訪問受入などです

*2 収益事業は、現地での図書販売も含まれます

監査報告書

特定非営利活動法人 ラオスのこども
代表 チャンクソン インタヴォン 殿

2017年 9月 2日

特定非営利活動法人 ラオスのこども

監 事 矢崎芽生
監 事 矢崎芽生

私たちは、特定非営利活動法人ラオスのこども 第15期2016年7月1日から2017年6月30日までの事業年度における、事業及び会計の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表ならびに収支計算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会に出席し、理事及び事務局から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続を用いて、業務の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 活動計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載事項と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 業務報告書の内容は、真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令の定款に違反する重大な過失はないと認める。

以上

2017年9月2日に脇田康司監事(弁護士)、矢崎芽生監事(公認会計士)により、監査がおこなわれ、上記の通り、監査報告書を受け取りました。

2017年度 第16期 事業計画 (2017年7月1日～2018年6月30日)

□背景と方向性

2016年7月1日から2019年6月30日までの第7次中期計画では、「読書推進活動」、「出版プロジェクト」、「子どもセンタープロジェクト」を継続して推進するとともに、ラオス事務所の能力強化や東京事務所での資金調達力の強化が重点項目となっています。

2016年度の振り返りから、成果が上がった点は伸ばし、成果が充分でない点は、当会が有する人材、資金、時間、情報、さらには経験という制約の中で、計画を実施する方策、プロセス、さらには予算を踏まえつつ優先順位づけをおこない、実現可能性の高い事業計画の策定に努めます。

また、プロジェクト運営においてラオスでの受託事業の比率が近年大きくなり、いくつもの事業が同時進行するようになっています。そのため事業活動の実施に追われ、準備、振り返り、改善点の洗い出しなどに時間を十分に使えていないという課題があります。この点、PDCAサイクル(Plan計画→ Do実行→ Check評価→ Act改善)の考え方を徹底して、事業活動の管理を円滑に進め継続的な改善を図ります。

また、ラオス事務所と東京事務所との情報共有の改善も必要です。コミュニケーションを改善して共通の目標に向かい、「車の両輪」のように有機的に連携して、事業推進にあたるのが、これまで以上に大切です。

2017年度の事業を推進する上で、上記の諸課題の解決を必須と考えます。

今期の運営責任を持つ理事・監事は以下の9名です。

理事	・猿田 由貴江	・塩谷 光	・新藤 雅章
	・チャンタソン インタヴォン	・野口 朝夫	・広瀬 未奈
	・森 透		
監事	・矢崎 芽生	・脇田 康司	

ラオスでのプロジェクト

I. 本に出会い、親しむ(読書推進活動)

●学校図書室の地域への展開事業

4年間に亘る事業の最終年度として、2県6郡の16ヶ所において、地域に根ざした図書活動の展開のまとめをおこないます。これまでに開設した学校図書室及び地域文庫の運営管理が十分におこなわれ、子どもたちに図書サービスが定期的に提供されているか確認をしつつ、JICA草の根技術協力事業としての終了時評価を実施します。第2フェーズ実施のための調査・検討・申請をおこなう計画です。

●学校図書室の整備

引き続き、小中学校の空き教室を利用して、本棚や本を提供し、教員研修をおこないます。新規開設は5カ所程度で実施します。既存学校図書室の活動の停滞化を防ぐため、フォローアップを強化します。これまでに開設した図書室で、活動状況調査とアドバイスを8カ所程度で実施する予定です。なお、実施数は、MoUの契約によって実施場所、箇所数が変わります。

●中等学校の図書館整備事業

政府の教育への取り組み強化により進学者が急増している中等学校では、生徒数の増加に比し教育環境および図書室の整備は極めて遅れています。一昨年度実施した大規模中等学校での図書館整備事業の経験を生かし、ヴィエンチャン県において、新たに中等学校で図書館整備をおこないます。

●ラオス事務所併設図書館の活動

子どもたちの生活の多様化が著しく、その影響もあり当会図書館を利用する生徒が減少しています。しかし、スタッフによる積極的な働き掛けで、図書館の魅力を増し、来館者を増やすことは可能と考えます。そこで、読書だけではなく表現する場として、さらに知る喜びを体験することができる機会を作ることで、満足度を高める工夫をおこないます。そのために、スタッフで話し合いながら、これまでの経験を参考に新しいアクティビティを開発します。

II. 本をつくる(出版プロジェクト)

ラオスの子ども達にとって、どのような本の提供が意味があるのかを常に問い直しつつ、質の高い多様な本を計画的に出版します。新刊とともに、評価が高い図書の再版、海外の作品の翻訳出版も検討します。8タイトル(うち、新刊は1～2タイトル、再版が5～6タイトル)を出版予定です。

基礎的な出版研修(編集、グラフィックデザインなど)を、ラオス事務所全スタッフに実施します。また、出版の企画会議を年2回実施する計画です。

今後の出版計画に反映させるために、既存の学校図書室に図書を届ける際などに、調査フォームを配付し、ニーズ調査をおこないます。

昨年・一昨年に実施し好評であった「折り紙ワークショップ」の実施を検討します。



III. 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

当会スタッフが2～3ヶ所のセンターを訪問し、活動状況や課題の把握に努めます。また、ヴィエンチャン都またはヴィエンチャン県の子どもセンターで、1～2講座の運営費をサポートし、運営立て直しのモデルケースとなるよう試行します。

IV. 奨学金事業（受託事業）

高校生対象の奨学金事業を継続して、受託することが決定しています。奨学金受給者は、ヴィエンチャン都150名、カムアン県150名の合計300名に

拡大して実施される予定です。

日本での活動

引き続き、「開発教育・国際理解」「ラオス語絵本プロジェクト」「使い残し・書き損じハガキ収集」の活動をおこない、ラオスの子どもたちの状況や会の活動への理解を深めます。

また定例の活動ミーティングでは、活動を支える人々、関心を持つ人々とのネットワークを強めていきます。さらに、物品販売など、自己資金獲得の為の活動を積極的におこないます。

組織の運営

市民性を大切にしながら、より専門性をもつNGOとして、安定した活動が継続するように、事業運営能力をより強化するとともに、計画的な研修によりスタッフの能力強化を図り、組織の運営能力の向上を図ります。

また、これまでの活動支援要請に加え、寄付者を増やすために、ファンドレイジングの手法により、資金調達をすすめます。東京事務所とラオス事務所との日常的なコミュニケーションを深め、情報の共有化を進めます。

2017年度 第16期 予算（2017年7月1日～2018年6月30日）

科 目	金 額
I 収入の部	
1.受取会費	1,060,000
2.受取寄付金	6,000,000
3.受取助成金等	21,250,000
4.事業収益	6,050,000
5.その他収益	100,000
収入合計	34,460,000
II 支出の部	
図書室地域展開事業	5,150,000
学校図書室整備事業	5,300,000
図書館建設事業	1,500,000
出版事業	3,000,000
子どもセンター事業	70,000
奨学金事業	8,600,000
交流事業・収益事業	3,700,000
東京管理費	5,210,000
ラオス管理費	1,970,000
支出合計	34,500,000
前期繰越金	4,475,371
次期繰越金	4,435,371

繰越金には前受助成金を含みます

これまでの寄付金及び事業補助金を維持しながら、「ファンドレイジング」に基づき、夏と冬の定期的な特別募金やカレンダー販売を実施します。さらに新たな支援者獲得を目指すマンスリーサポーター制度を、各種イベントや広報ツールを通じて広め、定着させるようにします。また、企業との協働イベントや、使い残し・書き損じはがき、未使用切手の回収などを積極的に働きかけます。

ラオスでの資金調達を促進し、図書委託販売先を増やします。また、受託事業を継続し、さらに企業、外国政府、国際機関、国際協力NGOに対し、資金調達を意識したプロジェクトの働きかけを行います。





特定非営利活動法人ラオスのこどもは、
今なお十分な教育を受ける機会がないラオスの子どもたちの
成長を願い、1982年から日本とラオスを中心に活動
を続けている国際協力NGOです。おもに、「図書・紙芝
居の出版」「学校・地域での図書室設立」「先生向けの図
書室運営・図書活用の研修」「作家・編集者の育成」、子
どもが集い遊び学べる「子どもセンター」の運営支援など
を行い、子どもが自ら学ぶ力を伸ばす環境づくりに取り組
んでいます。

組織の理念

「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献する
ことを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を
主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しなが
ら、読書に親しむ環境をつくれます。

(認定) 特定非営利活動法人ラオスのこども

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303
TEL/FAX 03-3755-1603 E-mail alctk@deknoylao.net
<http://deknoylao.net>